

ロケット「H3」 2号機、2月15日打ち上げへ 失敗受け対策

2023/12/27 22:40 | 日本経済新聞 電子版



地上から飛び立った後、指令破壊となった次世代大型ロケット「H3」（3月、種子島宇宙センター）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）が次世代大型ロケット「H3」2号機を2024年2月15日にも打ち上げる方針であることが27日、分かった。初号機の失敗を踏まえた追加対策を行い、宇宙空間に安全に到達できるかを確認する。

H3の2号機は種子島宇宙センター（鹿児島県）から打ち上げる。ロケットの性能を確認する機器と、超小型の人工衛星2基を搭載する。JAXAは絶縁の強化などの対策を施すなど安全性を高める。

初号機では観測衛星「だいち3号」を載せ、打ち上げ失敗で喪失していた。失敗時のリスクを最小限に抑えるため、今回は開発費用が数百億円規模の実用衛星は搭載しない。

H3は日本の基幹ロケット「H2A」の後継機だ。H2Aが残り3機で退役するため、H3の安定的な運用は国の重要な人工衛星の打ち上げに必須となっている。打ち上げ費用はH2Aの半分程度となる約50億円を目指している。

JAXAは3月、初号機を発射したが、機体第2段のエンジンの点火が確認できず指令破壊した。原因調査の結果、第2段では過大な電流が検知されていた。2号機について24年3月までの打

ち上げを目標に掲げ、対策の検討を進めてきた。

【関連記事】

- [H3ロケット初号機失敗 打ち上げ後に指令破壊](#)
- [H3ロケット失敗「部品の確認不足」 文科省調査報告書](#)
- [H3ロケット打ち上げ再開、JAXA理事長「23年度中に」](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.